

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	114	49	38	9.0	14.2	学校	463
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	113	58.5	45.4	49.5	43.5	49.9	8.5	8.2	14.5	13.3	9.2
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	123	54.6	39.4	48.2	38.2	40.0	10.1	6.1	14.1	6.8	10.7
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	123	58.1	54.1	56.1	53.2	62.3	10.6	—	8.1	—	4.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.6	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	106	110.0	102.5	142.4	98.0
10月16日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	142	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	30.45	29.42	44.27	52.71	86.74		8.26	195.14	21.56	43.71
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	24.60	22.64	44.84	48.02	46.43		8.90	164.46	11.24	47.06
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●「全国学力・学習状況調査結果」

全体的に平均正答率が上がった。昨年度と比較しても、国語は8.8ポイント、数学は6.2ポイント上がった。しかし、全国平均と比較した場合、国語は5.3ポイント、数学は10.3ポイントと下回っているため、今後も継続した学習活動を展開していく。また、平均無回答率についても昨年度と比較し改善されつつある。教科ごとの結果は以下の通りである。

＜国語＞すべての項目において学力が向上した。特に書く・読むの項目については、昨年度と比較し、それぞれ15.7ポイントと11.4ポイント向上した。全国平均と比較しても5.3ポイントと、昨年度より8.8ポイント改善され、今後の課題としては、「言葉の特徴」についての理解を深める必要がある。

＜数学＞すべての項目において学力が向上した。特に関数と、データの活用の項目については、昨年度と比較し、それぞれ6.5ポイント、9.8ポイント向上した。全国平均と比較した場合10.3ポイントと開きはあるものの、昨年度から6.2ポイント向上した。「思考・判断・表現」の分野については昨年度より7.2ポイント上回っており、全国平均に近づきつつある。今後も継続的な基本練習を重ねる必要がある。

（質問紙調査）「将来の夢や目標を持っていますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目については全国平均を上回っている。しかし、「自分には、良いところがあると思いますか」の項目では全国平均に比べて低く、今後は両項目が連動できる取組を実施していく。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目においても全国平均と比較して低く、改善していく必要がある。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目については、全国平均よりは低いですが、それぞれ93%を超えているので、さらに肯定的回答を高めていく。

【今後に向けて】放課後学習会やテスト前学習会等の成果が出てきている。主体的に参加し学習する生徒も増え、学習に対する意識は向上している。特にテスト前学習会では参加生徒数も多く学びサポーター及び学校元気アップ、各学年教員等が多数学習サポートを行い、活気のある学習活動の場となっている。また、夏休みの補充学習会にも積極的に参加する生徒が増え、今後も継続した実施を行っていく。図書室の利用については、一定数定期的に足を運び本を借りる生徒もいる。これらが、日々の家庭での学習や読書の習慣につながれば良いが、なかなか定着には至っていない。家庭学習の定着に向けては、宿題等課題の工夫を引き続き取り組む。キャリア学習では、各学年、企業と地域、保護者と連携した体験学習および職業講話（生き方学習会）を充実させ、学習目的や学習意欲の向上をめざし取り組んでいる。また、事前・事後学習を含め、意見交流やプレゼンに取り組むなど主体的、対話的な活動の取り組みも行っている。今後、教科指導においても予想・実験・考察の機会を多く持ったり、「根拠を示して自分の意見を発表することや話し合い考えを深める機会を積極的に設けるなど、学校全体で主体的に対話的活動に取り組む、「深い学び」につなげていく。更には心の天気を含むICT活用率を高め、個別最適な授業づくり、授業改善に取り組んでいく。

●「中学生チャレンジテスト(3年生)」

【成果と課題】

国語＜成果＞大阪府平均と約6点低かった。話すことに関する問題では大阪府平均に近かったが、古文問題や短答式の問題で大阪府平均との差が見られた。＜課題＞全体の平均点および、「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題については、大阪府平均より大幅に低くなっている。今後も古典分野や日常における言語指導を続けていく必要がある。

社会＜成果＞平均点は大阪府と比較して、5.8マイナスであった。地理分野・歴史分野ともに府平均から3.8と2.2とマイナスであったが、全体的に府平均に近づきつつある。

＜課題＞社会科においては、地理・歴史両分野とも府平均よりも低いので、基礎を固め、知識の定着が図れるように、振り返りのプリントなどを用いて、知識の定着を図っていく。

数学＜成果＞平均点は大阪府と比べて、マイナス4.4マイナスであった。どの分野においても大阪府平均を下回っているが、いずれも平均値マイナス1程度に近づいている。

＜課題＞数学科では特に基礎、基本の定着を図るために問題演習の量の増加をさせていく。また、個々のレベルに合わせて学習が進められるよう、レベル別のプリントに取り組ませていく。

理科＜成果＞平均点は大阪府と比べて、2.5点低かったが、領域では特に、生命単元および地球単元が大阪府平均との差はなく、着実に実力がついてきた。

＜課題＞理科において、普段生活の中で使わない語句を復習することが自信と結果につながると考えるので、語句や重要項目に取り組み知識の定着を図る機会を増やしたい。

英語＜成果＞平均点は大阪府と比較して、3.3マイナスであった。「聞くこと」「読むこと」の正答率については、大阪府平均とかなり近い値であった。リスニングや読むことを定期的に行った成果であると考えられる。

＜課題＞全体の平均点および、「書くこと」などの記述する問題については、大阪府平均より低くなっている。テンプレートなどを用いて、さまざまな条件の英作文を書く機会が必要である。

＜アンケート＞○成果アンケート調査においては「普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、本(教科書は除く)を読みますか」の項目については府平均より上回り、読書の習慣のある生徒が多い。しかし、「普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか」について、4時間以上使用すると回答が42.2パーセントと、非常に高い数値となった。

【今後に向けて】「中学生チャレンジテスト(3年生)」の結果より、各教科・各領域において府平均より下回っている。しかし、全教科において府平均に近づきつつあり、着実に実力が付き始めている。今後も、基礎基本の知識定着を重点的に進めていく。また、「読書」の習慣がさらに身に付くよう、図書室の活用を促進させていく。

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【1.2年チャレンジテスト分析・考察】

【2年】

《国語》

- 成果 府平均に比べて9.9ポイント下回る結果となった。書くことに関しては1ポイントにとどまっているが、他項目では大きく府平均と開く結果となった。
- 課題 思考・判断・表現では7.9ポイントと大きく差が開いている。読書活動などを通じ日頃から語彙力を増やすとともに、思考力を養うための課題などを通して定着を図る必要がある。

《社会》

- 成果 府平均と比べて4.9ポイント下回る結果となったが、昨年度より差が縮まっていたので良かった。
- 課題 授業の中で復習をするなど基礎学力の向上が必要である。また、グラフから考えるなど思考力をあげることもこれからの課題である。

《数学》

- 成果 府平均と比べて、6.8ポイント下回る結果となった。「数と式分野」は3.1ポイントと少し開きがあったが、「図形分野」は1.4ポイントの差にとどまった。
- 課題 知識・技能の観点の平均が府平均と比べて4ポイント下回っており、基礎から見直す必要がある。

《理科》

- 成果 平均点は府と比べて-8.5ポイントであった。また、分野別では生命単元が-4.5ポイントで、いろいろなつくりの名前や語句を覚えなければならない部分が弱かった。
- 課題 理科で必要な知識や重要語句に取り組み、知識の定着を図る機会を増やしていきたい。

《英語》

- 成果 府平均に比べ、11.8ポイント下回る結果となった。「書くこと」が-5.9ポイントと開きがあったが、「聞くこと」が-3ポイント、「読むこと」が-2.8ポイントの差にとどまり、一定の成果を見ることができた。
- 「書くこと」の分野が他の分野に比べて少し弱いので、普段の授業から基本単語や基本文型の反復練習の徹底や、家庭学習の習慣化を促していくことで定着を図っていく必要がある。

【1年】

《国語》

- 成果 府の平均と比較して、5.0ポイント下回る結果となった。「話すこと」「書くこと」の分野では、それぞれ-0.9ポイントであったが、「読むこと」の分野が-1.4ポイントという結果となり、「読むこと」への対策が課題となった。
- 課題 全体的に基礎知識を定着させるため、文法や漢字を重点的に復習していくと同時に、文章を読む力をつけるための練習を重ねていきたい。

《社会》

- 成果 全体は、市平均正答率の-4.2ポイントであった。そのうち、「基礎」が市平均の-3.3ポイントであるのに対し、「活用」が市平均の-7.1ポイントと、差が開いた。また分野別では、「歴史」が市平均の-3ポイントであるのに対し、「地理」が-5.4ポイントとなった。
- 課題 上記のことから、基礎的な知識を活用する力を養い、「地理」に対する苦手意識を取り除くための対策が必要である。

《数学》

- 成果 全体は、府平均正答率の-0.6ポイントであった。そのうち、「数と式」が府平均の-0.8ポイントであるのに対し、「関数」が府平均の-0.8ポイントと、差が開いた。しかし、「図形」が府平均の+1ポイント上回る形となった。
- 課題 すべての分野の土台にもなる「計算」分野に力を入れていく必要がある。

《理科》

- 成果 市の平均に比べ9.8ポイント下回っていた。内訳としては基礎分野で9.4ポイント、活用分野で6.1ポイント下回っており、基礎の定着を図る必要が考えられる。特に生物より化学の分野での不正答率が高くなっていた。
- 課題 分野に応じての正答率のばらつきが大きく、得手不得手をふまえても知識・技能の定着を図る必要がある。またそのはたらきかけで思考・表現などの記述にも対応できる力を養うことにつながると考えられる。

《英語》

- 成果 平均点は大阪府と比較して、-2.9ポイントとなった。「書くこと」では-0.9、「聞くこと」では-0.8、「読むこと」では-1.2となった。
- 課題 基礎学力の定着を図るため、反復学習を徹底した。授業では4技能をバランスよく養うように努めた。家庭学習の習慣化が今後の課題ととらえている。

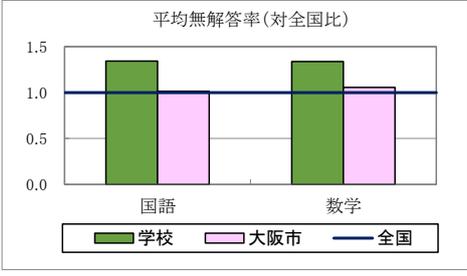
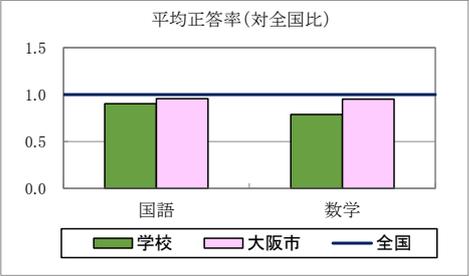
令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	49	38
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	9.0	14.2
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

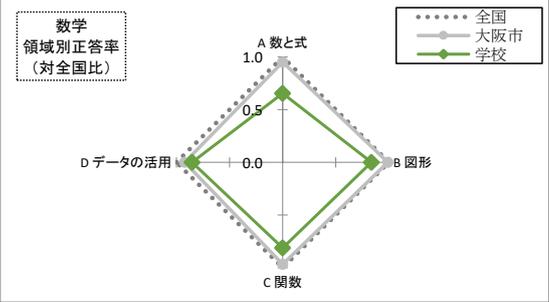
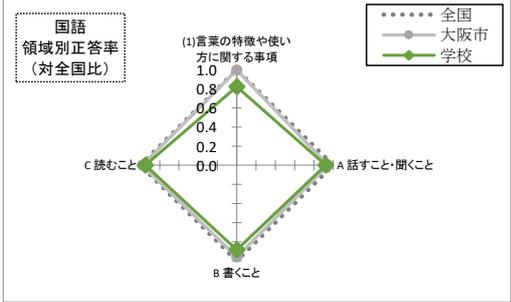
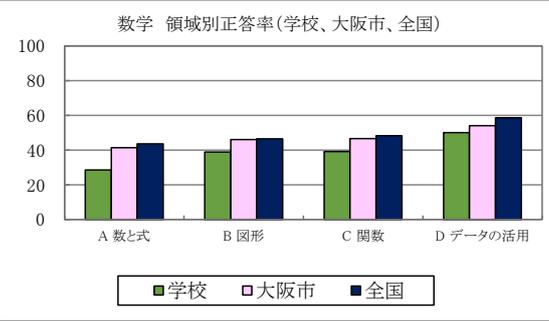
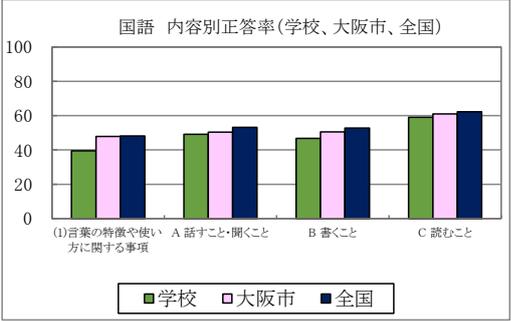


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	39.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	49.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	46.7	50.6	52.8
C 読むこと	3	59.1	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	28.5	41.4	43.5
B 図形	4	38.9	46.1	46.5
C 関数	3	39.1	46.6	48.2
D データの活用	3	50.0	54.0	58.6

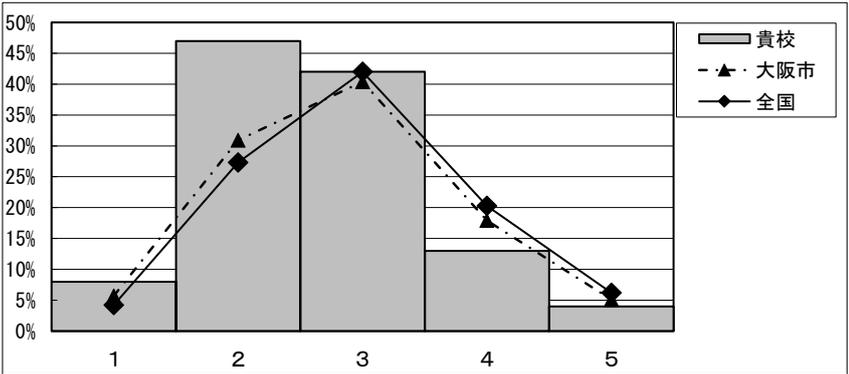
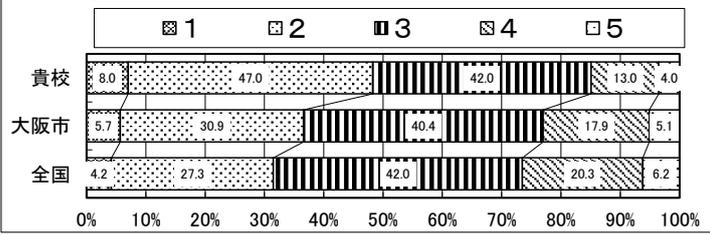


令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	463
大阪市	489
全国	503



令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

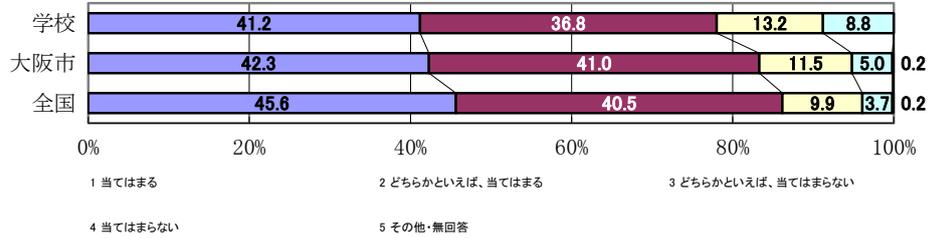
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

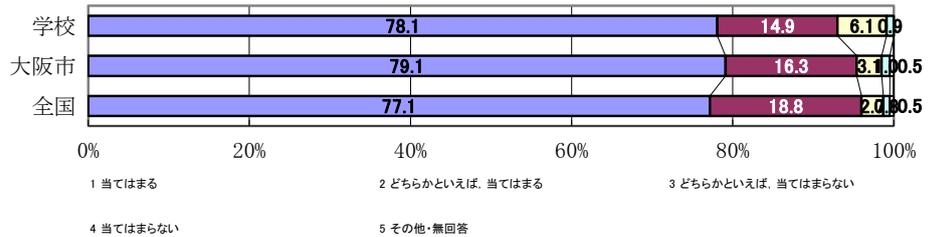
12

学校に行くのは楽しいと思えますか



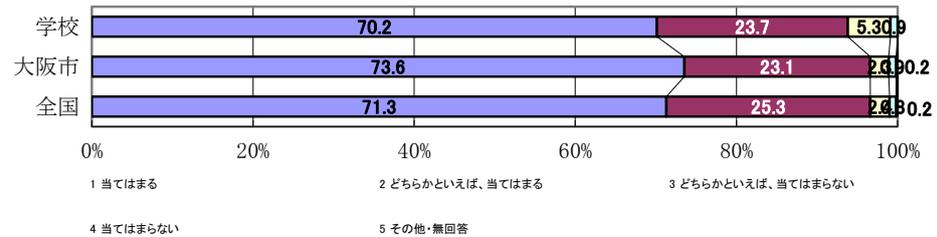
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



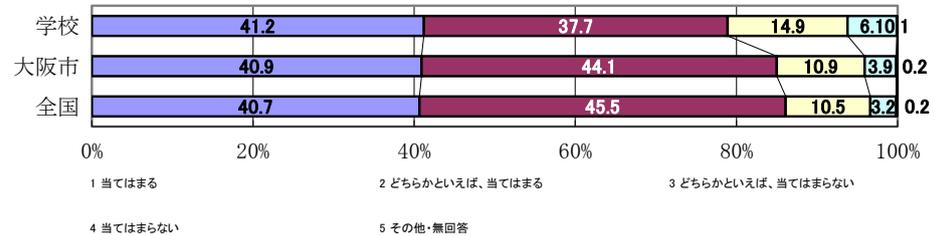
11

人の役に立つ人間になりたいと思えますか



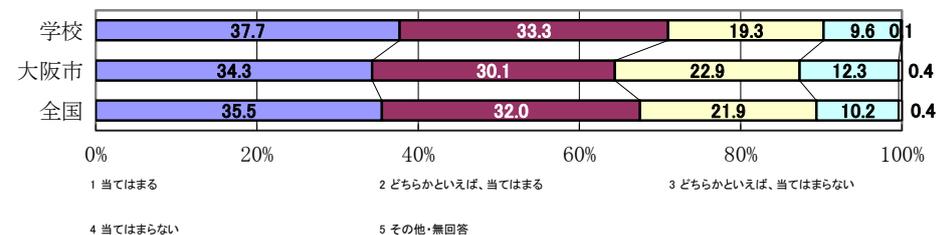
5

自分には、よいところがあると思えますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



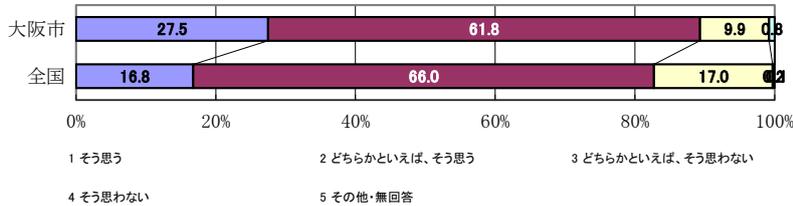
令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



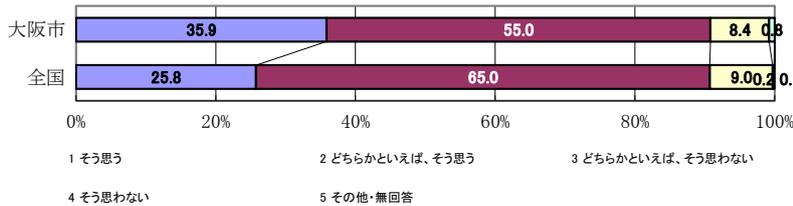
質問番号
質問事項
26
調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



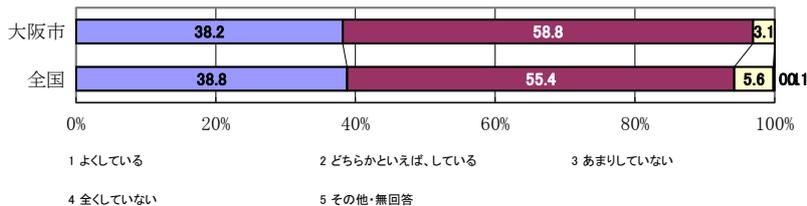
27
調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



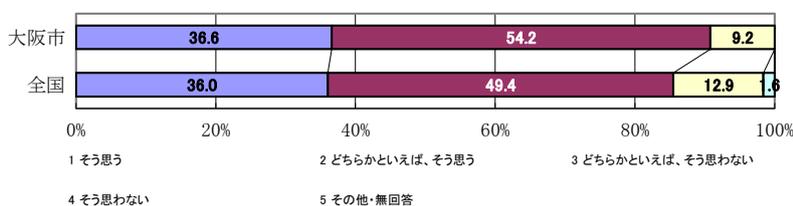
37
調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



57
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



59
調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週1回以上」を選択

